

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 49人 国語B 49人

② 算数A 49人 算数B 49人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

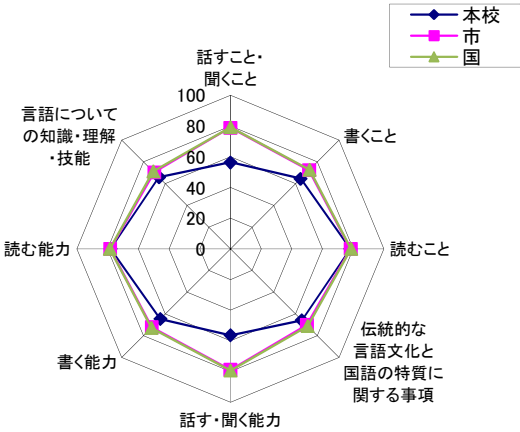
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

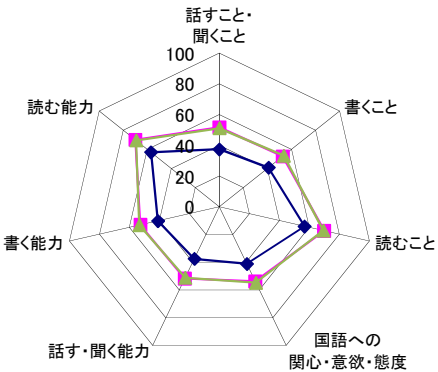
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	56.3	78.8	79.2
	書くこと	64.6	72.4	72.8
	読むこと	78.1	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.8	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	56.3	78.8	79.2
	書く能力	64.6	72.4	72.8
	読む能力	78.1	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	65.8	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	37.5	51.7	51.1
	書くこと	41.0	52.7	53.4
	読むこと	56.9	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	41.1	53.8	54.7
	話す・聞く能力	37.5	51.7	51.1
	書く能力	41.0	52.7	53.4
	読む能力	56.9	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

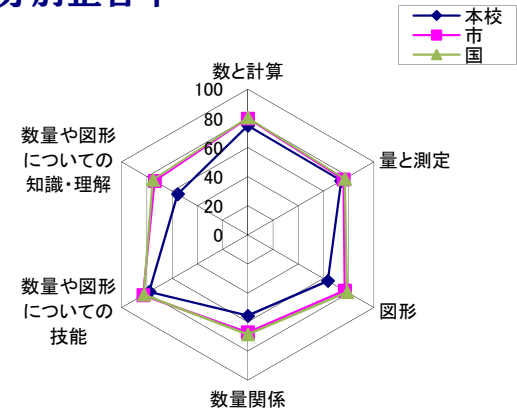
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおいて、平均正答率が56.3%で全国平均の79.2%よりも22.9ポイント低い。設問が目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うについてのみであった。 ●国語Bにおいて、平均正答率が37.5%で全国平均の51.1%よりも13.6ポイント低い。	・日常生活の中で話を聞く際のポイントを明確にし、話の中心や内容に気を付けて聞くように指導し、話し手の考えを捉えられるようにする。また、構成を意識して話すように指導する。
書くこと	●国語Aでは、平均正答率が64.6%で全校平均の72.8%よりも8.2ポイント低い。書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することに、課題がある。 ●国語Bにおいて、平均正答率が41.0%で全国平均の53.4%よりも12.4ポイント低い。	・文章の書く際のポイントを明確にし、目的や意図に応じて自分の考えを書けるように指導していく。具体的には、現在行っている日記指導や作文指導を継続して指導する。
読むこと	○国語Aでは、平均正答率が78.1%で全国平均の78.3%よりも0.2ポイントと低いが、ほぼ同ポイントである。登場人物の人物像について、複数の叙述を基にしてとらえることは、全国平均より高い数値であった。 ●国語Bにおいて、平均正答率が56.9%で全国平均の69.3%よりも12.4ポイント低い。	・本を読むことを奨励し、読んだ感想や意見を一分間スピーチなどで話させるようにし、身近なできごとの文章からの要旨の読み取る練習を積み重ねる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aでは、平均正答率が65.8%で全国平均の71.1%よりも5.3ポイント低い。平仮名で表記されたものをローマ字で書く設問とローマ字で表記されたものを正しく読む設問の平均正答率が低い。	・総合的な学習の時間や他の教科などでの調べ作業の時間にパソコンに触れる機会を意図的に増やしていきたい。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

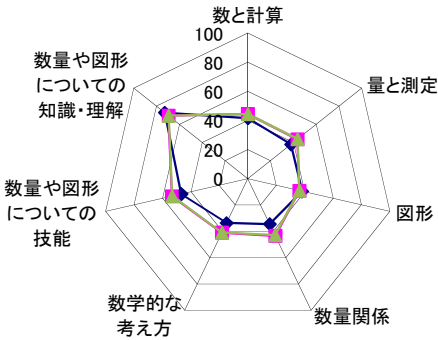
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	75.0	79.9	80.5
	量と測定	74.0	75.9	77.0
	図形	63.5	76.9	78.8
	数量関係	55.6	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	78.3	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	55.6	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	41.7	44.5	44.4
	量と測定	37.9	43.5	43.7
	図形	38.2	36.2	36.3
	数量関係	34.4	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	33.6	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	46.9	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	72.9	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aの平均正答率は75.0%で、市の79.9%より4.9%低い。しかし、末尾のそろっていない小数の加法計算では、全国の前答率を7.2ポイント上回っている。 ●除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことや分数と整数のかけ算などの計算技能を確かめる問題では、全国の前答率より10ポイント程度低い。 ●算数Bでは、全国の前答率と比べて2.7ポイント低い。多くの問題で同程度であるが、縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述する問題で全国の前答率よりも7.1ポイント低い。	・朝の学習の時間を有効に活用して着実に定着するように繰り返し指導していく。また、家庭学習でも取り組めるよう、苦手な部分を意識して取り組めるように支援する。 ・理由は理解しているが、文章として記述するときには不十分な記述となる。これまで多様な表現を取り入れて、算数に対する興味・関心を高めてきたが、言葉の使い方や文章で説明することにも意識を向け、正確な記述ができるようにする。また、算数だけでなく、国語や日記指導などを通して、語彙や表現力を養っていく。
量と測定	●算数Aでは、全国の前答率よりも3.0ポイント低い。三角形の底辺と高さの関係を確かめる問題では、全国と同程度と考えられるが、単位量あたりの大きさの求め方の理解が不十分である。 ○算数Bでは、示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題で全国より1.7ポイント高い。 ●算数Bの示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用し、説明を記述する問題で全国より16.0ポイント低い。	・単位量の理解が不十分であることから、数直線や図などを用いて理解をさらに深めていく。 ・説明の解釈では算数だけでなく、日常生活の中で文章に触れる機会を多くもち、読解力を高めるとともに、算数の問題文に多く触れるようにする。また、記述が正確にできるよう、授業の中で説明する機会を今まで同様多くもち、その中で理解が不十分な内容や的確な表現ができるよう支援する。
図形	●算数Aでは全国平均より15.3ポイント低い。直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ問題で全国の前答率より23.8ポイントと極めて低い。 ○算数Bでは全国の前答率より1.9ポイント高い。正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ問題の前答率が全国の前答率よりも6.8ポイント高いことが理由として考えられる。	・図形の構成要素や性質などでは不十分さが見られるため、多くの図形や立体物に触れさせ、体験的に理解できるようにする。また、見取り図などのかき方や見方なども確かめていく。 ・作業的な内容には抵抗が少ないため、活用を中心とする算数Bでは全国平均を上回ったと考えられるが、知識・理解も欠かせないため、さらに深められるよう、繰り返し復習していくようにする。
数量関係	●算数Aでは全国の前答率より12.9ポイント低い。これは割合や比などの理解が不十分であることが理由だと考えられる。 ●算数Bでは全国の前答率より8.5ポイント低い。特に、二つの表だけでは判断できないものを選ぶ問題で、全国の前答率を22.8ポイント下回った。	・全体量に対する部分の大きさや基準量と比較量の関係の理解が不十分であると考えられる。生活の中に見られる身近な題材を取り入れて、体験的に理解できるようにする。また、復習問題にも繰り返し取り組む。 ・表の読み取りが不十分である。理科の実験の表やグラフ、国語の説明文や社会の表やグラフなど、他教科の内容とも関連を図りながら、読み取る力を養っていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の問いに関する肯定的回答率は95.9%である。残り4.1%についても家庭に協力を求めて改善していきたい。

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはあるか」の問いの肯定的回答は98%で高い。今年度は最高学年として様々な取り組みをしてきた成果が見られる。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の問いの肯定的回答率は71.4%であることから、達成感がすぐに自主的な行動に結びついていないと言えない。さらに「自分にはよいところがあると思うか」の問いの肯定的回答率は73.5%であることから、自己肯定感をさらに高めるような支援をしていきたい。

○インターネットの使用については使用時間が1時間以上と答えた回答率は10.1%である。学習に利用することもあるようだが、長時間にならないよう指導していきたい。

○「学校図書館・学校図書室・地域の図書館にどれくらい行くか」の問いでは、各回答の回答率が県や全国と比べて多い。

○「家の手伝いをしているか」の問いには「よくしている」「時々している」を合わせた回答率が91.9%で市や全国の肯定的回答率よりも高い。

○「学校に行くのは楽しいか」の問いには「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた回答率が91.8%、「友達に会うのは楽しいか」の問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答率が97.9%で、どちらも高い。しかし、「どちらかといえばそう思わない」と回答している実態もあることから、さらに個別指導や学校生活の充実を通して支援していきたい。

●「毎日おなじくらの時間に寝ていますか」の問いの肯定的回答率は85.7%、「同じ時刻に起きているか」の問いには91.8%の児童が肯定的回答をしている。しかし、二つの問いを合わせて考えると、生活の不規則さが伺えるので、規則的な生活習慣を指導していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意か」の問いの肯定的回答率は44.9%で極めて低い。これは生活面だけでなく、学力に対する自信などにも関係があると考えられ、自己肯定感の低さにもつながると思われる。確かな学力と充実した生活を実現させることで、自信につなげていきたい。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりするか」の問いで、平日は1時間以上2時間より少ないの回答率が30.6%で一番多いが、4時間以上と3時間以上を合わせると28.5%となる。また、テレビゲーム時間についての問いでは、1時間以上の児童が86.7%で非常に多いことがわかる。平日の放課後の過ごし方として、テレビやビデオ・DVDテレビゲーム等で過ごす児童が多いこと、またその時間が長いことがわかる。学級懇談会などの機会を捉え、適切な生活について伝えていきたい。

●「学校の時間以外の1日当たりの勉強時間」についての問いでは、「1時間以上」の回答率は46.9%で極めて低い。放課後の生活習慣の中に1時間以上の学習が位置づけられていないことがわかる。また、土日など学校が休みの日の学習時間も「1時間より少ない」「全くしない」が合わせて46.9%で約半数になっている。スタンダード[®]の定着を進めていきたい。

●「5年生までに受けた授業では」で始まる問いでは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた回答率は市や全国と同程度となるが、「当てはまる」だけを見てみるとどの問いに対してもきわめて低い回答率である。現在の自分自身と比較していることを考えると、内面的な成長が感じられる。さらに一人一人が授業の中で生き生きと活躍できるよう場を設定していきたい。